

ちから
5

農業

関連する主な SDGs の目標

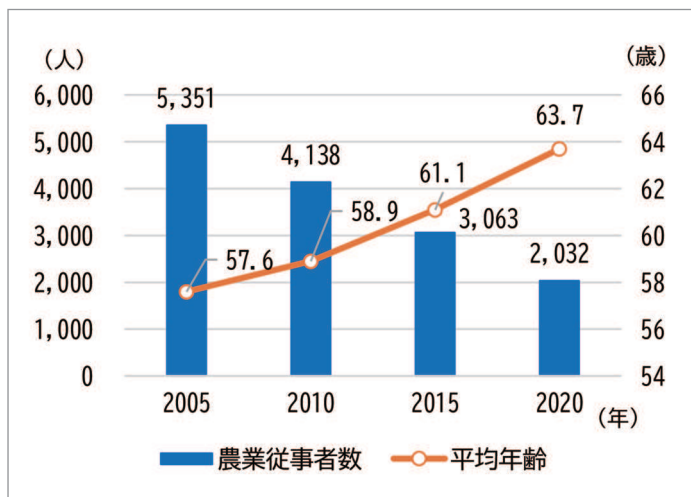


目指すまちの姿

食育や地産地消を通じた交流、担い手の育成、生産基盤の整備や経営基盤の構築などの活動を推進し、農業が持続的に発展するまち

現状・課題

- ◆ 農業従事者の高齢化や後継者の減少により、労働力の不足が懸念されており、対策が必要です。
- ◆ 地球温暖化による気候変動や政情不安などを理由とした食料安全保障に関する問題に備えるため、日ごろから農業生産の維持・増大を図り、食料自給率を高める取組が必要です。
- ◆ 農業が抱える生産コストの増大分を農畜産物の販売価格に転嫁できない構造的な課題により、農家の経営は圧迫されており、農業経営を安定させるための支援が必要です。
- ◆ 老朽化した農業用施設の更新や整備を通じて、良好な農業生産基盤を次世代へつないでいく必要があります。
- ◆ 農業への関心が低下し、伝統的な食文化や田園風景、地域の祭りなどの衰退が心配される中、市民の心身の健康や豊かな人間性の形成、食と農のつながりを深めるために、食育と地産地消の推進や農業との触れ合いの促進が必要です。
- ◆ SDGs やカーボンニュートラル*1への取組において、持続可能な農業の実現に向けた食料の安全性向上や環境負荷の軽減など、自然と調和した活動などが求められています。



農業従事者数と平均年齢



楽しく野菜づくりを体験できる一坪農園 (アグリライフ支援センター)

用語説明

* 1. カーボンニュートラル P 28 参照

施策の取組

(1) 担い手の育成及び確保

- ① 認定農業者*1の育成や法人化、円滑な経営継承などの支援により、地域農業の中心的な担い手を育成します。
- ② 新規の就農希望者に対する支援体制の充実を図り、次代を担う農業者を育成します。
- ③ 女性の経営参画や定年帰農者の就農などを支援し、広く農業を支える多様な担い手を育成します。

(2) 地域の特性をいかした多様な農業支援

- ① 先進事例の研究や農業者への支援により6次産業化*2を推進します。
- ② 生産性や収益性を踏まえて最新技術の導入に取り組む農業者を支援し、スマート農業*3を推進します。
- ③ 農業技術・経営管理能力の向上のための研修会や国制度の活用などにより、農業経営体の育成及び支援を推進します。
- ④ 地元農産物のブランド化及び販路の拡大を推進します。
- ⑤ 農業分野の研究機関、教育機関などが集積する地域において、ものづくり産業が有する高い技術力の農業分野における活用について調査・研究を進めます。

(3) 農業生産基盤整備の推進及び農地集積の促進

- ① ほ場*4の大型化や農業用施設の更新などにより、良好な農業生産基盤の整備を進めます。
- ② 優良農地を保全し、調和のとれた農村環境の整備を進めます。
- ③ JAなどの関係機関との連携に努め、農地の利用集積を促進します。
- ④ 魅力ある自然環境、生活環境づくりのため、農地などが持つ多面的機能を保全する地域活動を支援します。

(4) 食育の普及及び農への理解とふれあい・交流の促進啓発活動の推進

- ① 大学などと協働*5して地元農産物を使用したレシピ開発を行い、各種イベントでのPRを行います。
- ② 動画やSNSなどを効果的に活用し、若い世代への食育の啓発を図るなど、年齢や生活場面に応じた切れ目ない食育活動を推進します。
- ③ 農業の魅力の発信、農産物の安全性や学校給食における地元産使用に関する情報の提供など、農業への理解と消費者の信頼の向上を図る取組を促進します。
- ④ 交流機会の創出、農のあるくらしの普及促進、小中学校や保育所・認定こども園などでの農業体験を推進します。

(5) 環境保全型農業の推進

- ① 農薬・化学肥料の使用量の低減や廃プラスチックの排出抑制など、環境と調和した持続可能な農業を推進します。

成果指標

	指 標	策定時の値（2023年度）	目標値（2031年度）
	安城市内の食料自給率	31.0%（2020年度）	39.0%
	食育に関心がある人の割合	85.3%（2022年度）	94.0%以上

関連計画

- 第3次安城市食料・農業・交流基本計画
- 安城農業振興地域整備計画

用語説明

- * 1. 認定農業者 農業経営基盤強化促進法の規定に基づき計画を作成し、市長の認定を受けた農業者
- * 2. 6次産業化 1次、2次、3次産業の事業を一体的に推進し、地域資源を活用して新たな付加価値を生み出す取組
- * 3. スマート農業 ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を推進する新たな農業
- * 4. ほ場 作物を栽培する田畑のこと
- * 5. 協働 P7参照



商工業

関連する主な SDG s の目標

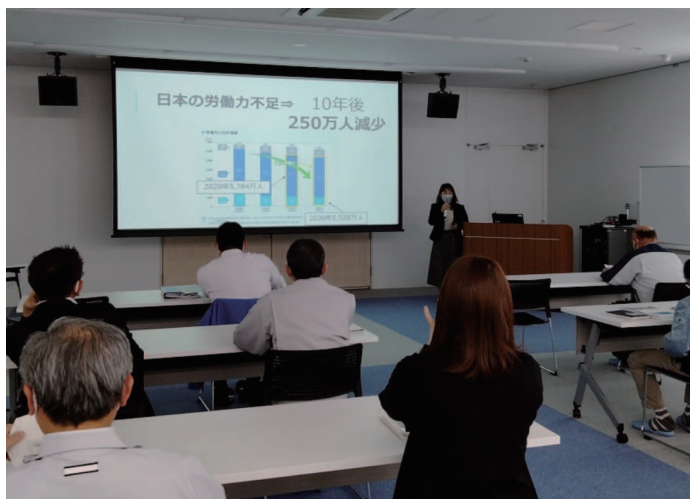


目指すまちの姿

小売・サービス業の魅力向上や活力ある商業集積の形成、ものづくり産業の経営基盤及び競争力の強化と新規産業の創出などによって商工業がバランスよく発展し、市内経済の活性化と豊かな市民生活が実現するまち

現状・課題

- ◆ 商店街の空き店舗減少と魅力ある小売・サービス業の創出が必要です。
- ◆ 商業者の高齢化・後継者不足、商店街活動の担い手不足などを受けて、商店街振興組合に限らない幅広い担い手による賑わい創出への取組が求められています。
- ◆ 自動車産業のCASE革命*1など、新たな分野における技術革新が進んでいることから、自社技術を活かした新製品や新技術の開発に取り組む中小企業を支援していくことが必要です。
- ◆ カーボンニュートラル*2やデジタル化など、時代の変化に対応できる中小企業支援が必要です。
- ◆ 企業の立地需要は高い状況にあり、需要を満たす用地の確保が求められています。
- ◆ 成長産業の企業誘致と市内企業の流出抑制のため、企業立地を推進していく必要があります。
- ◆ 雇用の定着、雇用の創出のため、創業に対する支援や事業承継に対する支援を積極的に進めていくことが必要です。
- ◆ 多様な働き手の参画を促し、労働力を確保するための取組が必要です。
- ◆ 長時間労働の抑制、ワーク・ライフ・バランス*3の実現など、働きやすい・働きがいのある職場づくりが求められています。



中小企業支援に関するセミナー



キッチンカーと人でにぎわう安城まちなかホコ天きーぼー市

用語説明

- * 1. CASE 革命
 - * 2. カーボンニュートラル
 - * 3. ワーク・ライフ・バランス
- P 8 参照
P 2 8 参照
仕事と生活のバランスがとれた状態のこと

施策の取組

(1) 商業の振興

- ① 市内の店舗や起業家への経営支援や創業支援を行います。また、関係機関と連携して経営基盤の強化、合理化などを支援します。
- ② 主要駅周辺の商店街における賑わい創出のための取組を支援します。

(2) ものづくり産業の振興

- ① 新製品や新技術の開発への意欲向上につながる支援を行います。
- ② 経営向上に資する取組（特にカーボンニュートラル*¹やデジタル化）について情報発信による啓発を行うとともに、事業者へのヒアリングなどを踏まえ、効果的な成果が出るよう中小企業を支援します。
- ③ 既存企業の流出抑制を図るため、事業所の拡張に対応可能な工業用地の確保に加え、各企業が用地取得をできるような環境の整備を進めます。
- ④ 融資制度、補助制度の周知を図るとともに、中小企業に対する経営支援を行います。

(3) 企業立地の推進

- ① 企業立地を推進するため、公共による工業団地の造成に加え、民間開発においても必要な用地が確保されるよう、計画的に施策を進めます。
- ② 産業ゾーンへの立地が促進されるよう、環境整備などの支援を行います。

(4) 創業支援・事業承継の推進

- ① 安城商工会議所及び金融機関と相互に連携し、創業時や事業承継時に加え、創業後や事業承継後の伴走支援も行い、事業経営を支援します。
- ② 創業支援・事業承継の推進により雇用の維持・拡大を図ります。

(5) 雇用・就労支援

- ① 若年無業者や子育て世代の就職支援を通じ、地域の労働力確保及び雇用定着を図ります。
- ② 企業誘致、創業支援により雇用を拡大し、就業機会の増大に努めます。
- ③ 働きやすい・働きがいのある職場環境を整備する中小企業の取組を促進します。

成果指標

指 標	策定時の値（2023年度）	目標値（2031年度）
市内総生産* ²	1兆2,961億円	1兆4,850億円

関連計画

- 安城市企業立地推進計画
- 安城市農業振興地域整備計画
- 第三次安城市都市計画マスタープラン



ものづくり企業に特化したポータルサイト「安城ものづくりコネクション」



企業立地推進に向けた工業団地造成事業（北山崎地区）

用語説明

- * 1. カーボンニュートラル P 28 参照
- * 2. 市内総生産 P 27 参照



観光・交流

関連する主なSDGsの目標

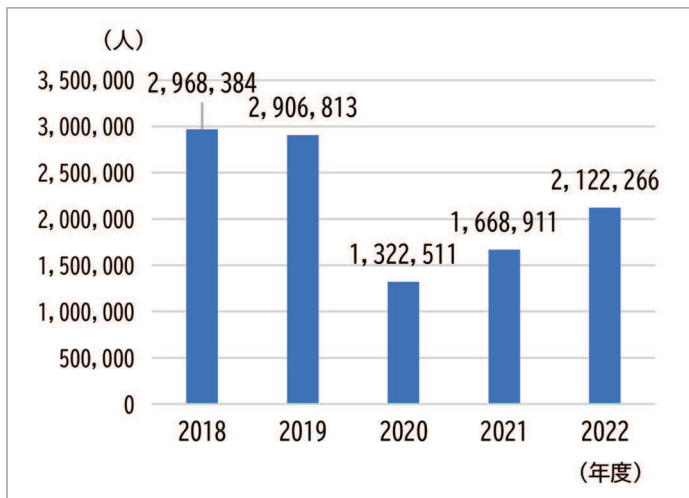


目指すまちの姿

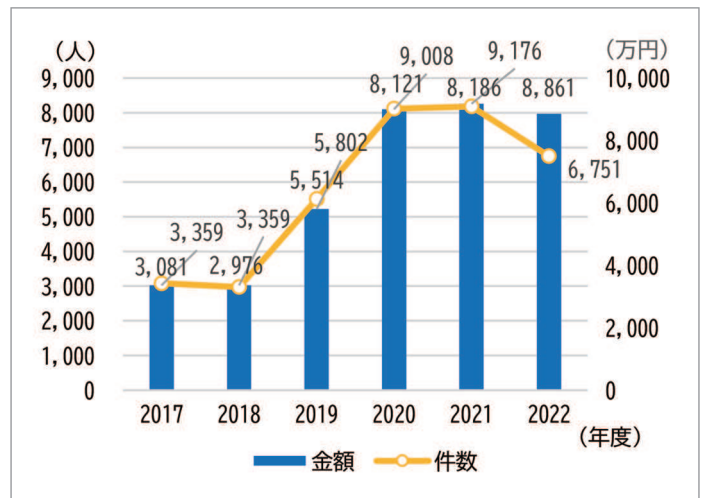
観光施設や史跡などの地域資源を最大限活用した積極的なシティプロモーション*1によって交流人口*2、関係人口*3が拡大するまち

現状・課題

- ◆ より多くの市民参加や環境への配慮など、時代の変化に対応したさらなる魅力ある安城七夕まつりの開催が求められています。
- ◆ 国指定史跡である本證寺境内をはじめとする歴史資源を有効に活用し、市民や観光客が歴史文化に触れる機会を提供する必要があります。
- ◆ デンパークをはじめとする観光資源について、質の高い、魅力ある施設運営に引き続き努める必要があります。
- ◆ 訪問の目的地として選ばれるまちとなるよう、認知度やブランド力の向上に取り組む必要があります。
- ◆ 人口減少や少子高齢化により、まちづくりに関わる人材が減少することから、居住地に関わらず、本市のまちづくりに携わってくれる人材を確保する必要があります。



観光入込客数*4の推移



ふるさと納税寄付額・件数の推移

用語説明

- * 1. シティプロモーション
 - * 2. 交流人口
 - * 3. 関係人口
 - * 4. 観光入込客数
- まちの認知度やブランド力を向上させるために行う活動のこと
 P 19 参照
 P 28 参照
 P 27 参照

施策の取組

(1) 観光資源の活用

- ① デンパーク、丈山苑などの観光資源をはじめ、国指定史跡の本證寺境内などの歴史資源、新美南吉、安城芸妓などの地域資源について、観光資源としての活用や魅力向上に努めます。
- ② 市民や観光客に、まちの魅力を詳しく知ってもらえるよう、観光資源を周遊できる多様な観光モデルコースを設定します。

(2) 観光資源の充実

- ① 安城七夕まつりは、まつりに関わる市民との協働^{*1}により、「願いごと、日本一。」のコンセプトをいかしたまつりの魅力を国内外に広く発信します。
- ② 市民の憩いの場としてだけでなく、貴重な観光資源となっているデンパークは、質の高い施設運営により、来園者の満足度を高めるよう努めます。
- ③ 特産品を活用した新たな商品開発を支援し、観光消費の拡大につなげます。

(3) 観光情報の発信・シティプロモーション^{*2}

- ① ウェブサイトやSNSなどの活用により、観光情報の効果的な発信に努めます。
- ② 地域の魅力を地域の人々が伝えるガイドボランティア活動を支援します。
- ③ 近隣市町と連携し、広域的な観光を推進するとともに、外国人に対応した観光情報の発信に努めます。
- ④ まちの魅力を積極的に発信し、認知度やブランド力の向上に努めます。

(4) さらなる交流の促進

- ① アンフォーレなどにおいて、さらなる人々の交流促進やまちの賑わい創出のきっかけ作りを行います。
- ② プロバスケットボールチームの本拠地として計画される地域交流の拠点における民間事業者との公民連携の取組など、多様な主体との連携により交流人口^{*3}、関係人口^{*4}を生み出します。
- ③ ふるさと納税返礼品の充実により、関係人口の創出を図ります。

成果指標

指標	策定時の値 (2023年度)	目標値 (2031年度)
観光施設やイベントにおける観光入込客数 ^{*5} (単年度)	208万人 (2022年度)	300万人
ふるさと納税制度を利用した寄附金額	1億399万円 (2022年度)	4億5,000万円

関連計画

- 史跡本證寺境内整備基本計画
- 国指定史跡本證寺境内保存活用計画
- 桜井古墳群保存管理計画
- 第3次安城市食料・農業・交流基本計画



「願いごと、日本一。」の安城七夕まつり



花と緑の公園 デンパーク

用語説明

- * 1. 協働 P 7 参照
- * 2. シティプロモーション P 4 5 参照
- * 3. 交流人口 P 1 9 参照
- * 4. 関係人口 P 2 8 参照
- * 5. 観光入込客数 P 2 7 参照

ちから
8

文化芸術

関連する主なSDGsの目標

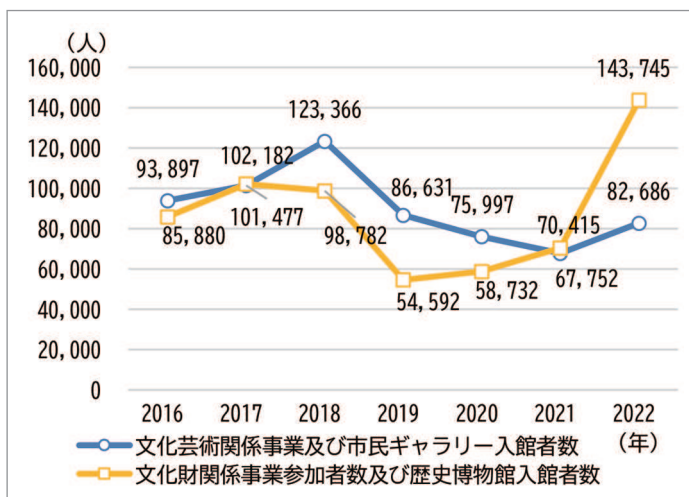


目指すまちの姿

文化や歴史、芸術を市民が鑑賞・見学するとともに、主体的に文化芸術活動を行うことで、心の豊かさと幸せを実感するだけでなく、地域への誇りを育むまち

現状・課題

- ◆ 施設や人材を確保し、文化振興に対する取組を行ってきましたが、今後は、福祉、教育、産業など他分野との連携した取組が求められます。
- ◆ 幅広い分野において芸術の鑑賞機会を提供しているものの、インスタレーション*1などの時代と共に変化する新しい芸術の多様な表現を市民が身近に享受できる環境や仕組みの充実が求められています。
- ◆ 多様な視点を取り入れた文化芸術の振興や、市内で芸術活動を行っている人の発表の場の充実など、市民や関連団体との協働*2により、地域の力を巻き込んで文化芸術活動を振興していく必要があります。
- ◆ 休日の中学校部活動の段階的な地域移行への取組を契機に、子どもたちが文化活動を行うための環境整備と機会の創出に取り組む必要があります。
- ◆ 歴史資源の分野では、これまで保存事業を中心に取り組んできましたが、その価値を一人ひとりが享受できる活用やそのための整備があまり進んでいない状況です。文化財の総合的な保存活用と整備、市民やボランティア団体との協働を通じて、歴史資源を核にした「まちづくり」を図る必要があります。
- ◆ 将来にわたって歴史資源を保存、蓄積していくとともに、時代や価値観の変化に対応しつつ、だれもが文化芸術による心の豊かさと幸せを実感できるように対応していくことが求められます。
- ◆ 文化芸術に関わるグループは、高齢化やアートマネジメント*3能力の向上が必要といった課題を抱えています。これら課題解決に向けた取組と次世代への発展的な継承が求められます。



入館者数などの推移



かつての三河一向一揆の拠点 本證寺 本堂・鼓楼・大門

用語説明

- * 1. インスタレーション
- * 2. 協働
- * 3. アートマネジメント

作家の意向に沿ってオブジェや装置を置いて、空間全体を作品として体験する芸術 P7参照
 展覧会やイベントなどの企画・運営から広報、普及活動、人材育成など芸術に関わる業務全般の運営管理

施策の取組

(1) 文化芸術活動の活性化

- ① 多様な人が文化芸術に携わり、楽しむ機会が得られるよう、イベントや展示会の内容、展示方法などを工夫します。また、情報発信についても方法や媒体などの充実を図ります。
- ② 若い世代への様々な文化芸術活動や作品の鑑賞機会を充実させるとともに、積極的に文化芸術活動に携わる機会を提供することで、感性豊かな人材を育てます。
- ③ 魅力ある質の高い芸術作品を身近に鑑賞できる機会を増やすとともに、市民が時代の変化に応じた、多様で新しい芸術表現を享受できる環境を整えます。
- ④ 文化芸術活動に携わる人との協働^{*1}を進め、公募型事業などを活用することで、様々な芸術活動を行う個人・団体に発表の場を提供し、活動を広く市民に紹介します。
- ⑤ 子どもたちの文化活動を充実させるため、休日の中学校部活動の段階的地域移行について、関係団体と連携しながら進めます。

(2) 歴史資源の保存と活用

- ① 国指定史跡本證寺境内の保存活用整備を進めるなど、歴史資源の保存や活用に取り組みます。
- ② 歴史資源や博物館を核に、市民やボランティア団体と協働で、まちの活性化につながる取組を進めます。また、活動に主体的に取り組むことのできる人材育成や環境を整えます。
- ③ 歴史資源の調査研究を進め、成果を子どもから大人までわかりやすく学んでもらえるよう、時代や価値観の変化に対応しながら新しい技術を取り入れ、歴史博物館の展示や歴史資源の魅力向上を図ります。
- ④ 市民や民間団体などと連携した歴史資源の総合的な保存活用を目指します。

(3) アートマネジメント^{*2}能力の向上

- ① 文化や歴史、芸術活動に携わる市民のアートマネジメント能力を向上させることで、市民の文化芸術活動の活性化を図ります。

成果指標

指 標	策定時の値 (2023 年度)	目標値 (2031 年度)
安城の文化・歴史に愛着や誇りを感じる人の割合	43.5%	47.5%
文化芸術関係事業参加者数及び市民ギャラリー入館者数 (単年度)	97,611 人 (2022 年度までの平均値)	107,000 人
文化財関係事業参加者数及び歴史博物館入館者数 (単年度)	107,647 人 (2022 年度までの平均値)	118,000 人

関連計画

- 安城市文化振興計画
- 桜井古墳群保存管理計画
- 史跡本證寺境内整備基本計画
- 国指定史跡本證寺境内保存活用計画



安城の歴史を知る機会の提供 (松平シンポジウム)



芸術鑑賞機会の提供 (田村響とセントラル愛知交響楽団コンサート)

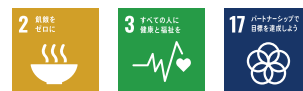
用語説明

- * 1. 協働 P 7 参照
- * 2. アートマネジメント P 4 7 参照



健康・医療

関連する主な SDGs の目標

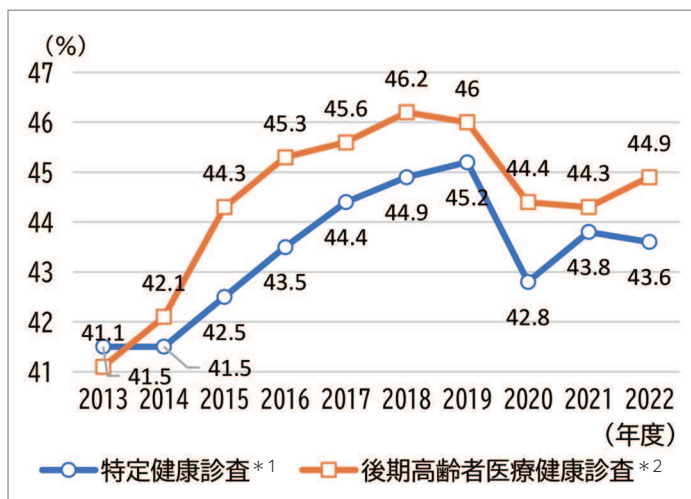


目指すまちの姿

市民一人ひとりが、心身の健康への意識を高め、生涯を通じて健康づくりに取り組み、健やかに自分らしく生活できるまち

現状・課題

- ◆ 子育てなどの家庭生活や仕事、趣味などの社会生活が多様化する中、生涯にわたりライフステージに合わせた健康支援が必要です。
- ◆ グループや地域コミュニティにおける健康づくり活動が実施されています。団体での活動は継続的な健康づくりにつながるため、引き続き促進し、個人の健康づくりにおいても継続できる仕掛けづくりが必要です。
- ◆ 病気の予防や早期発見に有効な健診（検診）を受ける人の割合は増えてきていますが、まだ十分とは言えません。市民一人ひとりが健康管理を自主的に行うような仕組みづくりが必要です。
- ◆ さらなる高齢化の進展に伴い、医療需要が高まる中、市民が健康で安心して暮らしていくためには、地域医療の一層の充実が必要です。
- ◆ 心のケアや自殺予防のために、心身の健康を促進する取組が必要です。



健康診査受診率の推移



親子でも気軽に参加できる健康づくりきっかけ教室

用語説明

* 1. 特定健康診査

* 2. 後期高齢者医療健康診査

40歳以上74歳以下の安城市国民健康保険加入者及び健康保険未加入者を対象に、メタボリックシンドロームに着目した生活習慣病予防のための健康診査
愛知県後期高齢者医療保険加入者及び75歳以上の健康保険未加入者を対象に、生活習慣病の早期発見により重症化を予防することを目的として実施する健康診査

施策の取組

(1) 健康づくりの機会の拡充

- ① 企業などとも協力し、健康づくりに関心の薄い人や意識があっても行動に移せない人に、無理なく健康づくりに取り組むきっかけとなる様々な機会を提供します。
- ② 子どもから高齢者までライフステージに応じた、様々な健康づくりの機会を提供します。

(2) 継続的な健康づくりのできる体制整備

- ① 地域の健康づくり活動を担う人材を活用し、健康づくりに一緒に取り組む仲間づくりを進めます。
- ② 健康づくりの行動へのインセンティブ*1など、健康づくりの継続を後押しする環境を整備します。

(3) 健康管理の支援

- ① 病気の予防や早期発見につながる各種健診（検診）の受診率向上のための取組を進めます。
- ② 野菜の摂取や栄養バランスのとれた食生活への改善に向けた取組を支援します。
- ③ 乳幼児期から歯と口の健康について啓発を進めるとともに、健診（検診）の受診を促します。
- ④ 医療・健診（検診）データなどを基に、健康増進に関する課題を分析し、対策につなげます。

(4) 地域医療体制の充実

- ① かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の普及促進を図ります。
- ② 医療需要の増大に対応できる体制を充実させるため、保健・福祉との連携を強化し、地域全体の医療連携（地域医療）を推進します。

(5) こころの健康づくり

- ① 自殺対策を推進するため、関係部署や関連団体との連携体制を構築します。
- ② こころの健康づくりに関する普及啓発などの取組を推進します。
- ③ ゲートキーパー*2など、自殺対策に関わる人材を育成します。

成果指標

指 標	策定時の値（2023年度）	目標値（2031年度）
健康であると感じている人の割合	83.1%	87.0%
日ごろから健康づくりを実践している人の割合	66.7%	75.0%

関連計画

- 第2次健康日本2 1安城計画
- 第2次いのちを支える安城計画（安城市自殺対策計画）
- 第4期安城市国民健康保険特定健康診査等実施計画
- 第3期安城市国民健康保険データヘルス計画
- 第3次安城市食料・農業・交流基本計画
- 第2期安城市子ども・子育て支援事業計画



気軽に健康測定できる機会の提供（健康測定会）



食生活を中心とした健康づくりを進めるボランティア活動（食育メイト）

用語説明

- * 1. インセンティブ
- * 2. ゲートキーパー

モチベーションを維持・増幅させるための外的刺激、動機づけ、報酬など自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる人のこと

ちから 10 スポーツ

関連する主な SDG s の目標



目指すまちの姿

市民が「する」・「みる」・「おしえる」・「ささえる」の様々な立場から気軽にスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康で活力あるくらしができるまち

現状・課題

- ◆ 健康増進や楽しみのために、「する」・「みる」・「おしえる」・「ささえる」といった様々な立場から気軽にスポーツに親しめる環境の充実が必要です。
- ◆ スポーツに馴染みの薄い人が関心を持ったり、気軽に始めたりするためのきっかけを創出することが重要です。
- ◆ 休日の中学校部活動の段階的な地域移行への取組を契機に、関係団体などと連携を密にし、子どもたちがスポーツを楽しむための環境整備と機会の創出に取り組む必要があります。
- ◆ 市民のニーズや利用状況などにより、身近な場所で気軽に安心してスポーツが楽しめるよう、施設の充実と適切な管理に取り組む必要があります。
- ◆ 今後、本市を活動拠点とするプロスポーツチームや地域のスポーツチームの認知度向上のため、各スポーツチームなどとの連携を図ることにより、地域の活性化とスポーツへの関心を高める必要があります。
- ◆ 国際的なスポーツ大会の開催によるスポーツへの関心の高まりが一過性のものとならないよう、第20回アジア競技大会（2026 / 愛知・名古屋）の開催という絶好の機会を捉え、その開催気運の醸成につながる取組により、スポーツに対する興味や関心をより一層高める機会の創出を図る必要があります。



数多くの市民が参加した特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会



安城市のスポーツ選手と子どもとの交流（トップアスリートと遊ぼう！）

施策の取組

(1) 「する」・「みる」・「おしえる」・「ささえる」スポーツの振興

- ① 健康の増進とスポーツを始めるきっかけづくりのため、ラジオ体操の普及を図ります。
- ② 誰もが生涯にわたりスポーツに親しむことのできる環境を充実させるとともに、全国大会などにおける活躍の機会が増えるよう競技力の向上に取り組みます。
- ③ スポーツをみる楽しさを感じ、さらにスポーツをするきっかけにつながるよう、関心の高い競技やトップレベルの試合が観戦できる機会の充実を図ります。
- ④ 優れた指導者の養成により、安全に楽しく、質の高い指導が行われることで、子どもの健全な成長や夢の実現を図ります。
- ⑤ スポーツ推進委員やボランティア、協賛企業などが最大限に力を発揮できる環境を整え、スポーツをサポートする体制の強化を図ります。
- ⑥ 子どものスポーツ環境の充実のため、休日の中学校部活動の段階的な地域移行について、関係団体と連携しながら進めます。

(2) スポーツ施設環境の整備

- ① 市民ニーズや利用状況などにより、既存施設の改修や新たな施設整備の調査研究を行い、適正な整備・配置及び維持に努めます。

(3) スポーツ団体の支援・育成

- ① 地元企業とのスポーツ連携の強化を図り、トップレベルの選手による技術指導会や交流機会を創出します。
- ② 本市を新たな活動拠点とするプロスポーツチームと連携し、市民に対するチーム認知度向上を図ることにより、市民がチームを応援する気運を醸成します。
- ③ スポーツ団体の認知度向上を図るため、情報提供をはじめとする活動支援を行うとともに、新たな団体の育成に取り組みます。

(4) 国際・全国大会開催に伴うスポーツの振興

- ① より高みを目指す子どもや選手を支援します。また、市民のスポーツへの興味・関心を高めるとともに地域活力の一層の向上を図るため、国際・全国大会の誘致など、スポーツを「みる」環境のさらなる充実を図ります。
- ② 第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）に関する情報の周知や出場選手の紹介、交流機会の創出などに努めることで市民のスポーツへの興味・関心の向上を図ります。

成果指標

指 標	策定時の値（2023年度）	目標値（2031年度）
成人の週1回以上のスポーツ実施率	69.5%	70.0%
市主催スポーツ事業参加者数	62,052人（2022年度）	125,000人

関連計画

- 第2次安城市スポーツ振興計画改訂版

ちから
11

生涯学習

関連する主なSDGsの目標

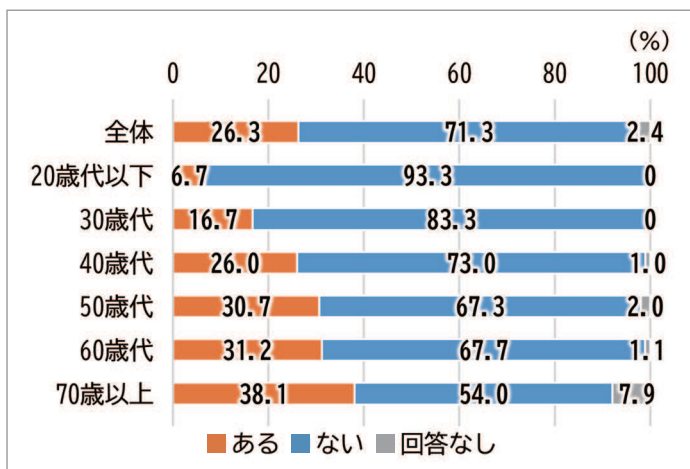


目指すまちの姿

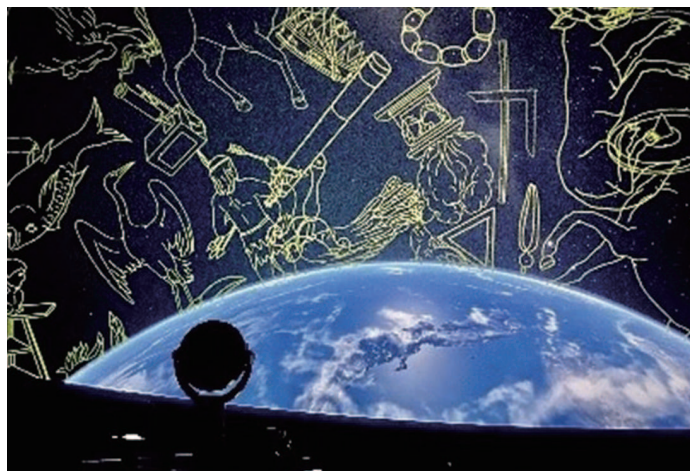
市民が、いつでもどこでも生涯を通じて、自分らしく主体的に学習することができ、人や地域との絆を深めるとともに、新たな価値観や行動を生み出すことができるよう生涯学習環境が充実したまち

現状・課題

- ◆ 人生100年時代と言われ、ライフスタイルや価値観の多様化に伴い、だれもが学べる多様な生涯学習の充実が求められています。
- ◆ 時代の潮流や市民の学習ニーズを把握し、それらに対応した講座の充実が求められています。
- ◆ 多くの市民が生涯学習に取り組んでいますが、講座や教室などの受講生の世代構成をみると、若者、働く世代の市民が少ない状況です。
- ◆ 定年延長に伴い、生涯学習に取り組み始める時期が遅れたり、逸する場合が考えられ、その結果、生涯学習を通じて市民活動に移る活動の担い手が減少している現状があります。
- ◆ 人と人とのつながりの希薄化が地域における教育力の低下、家庭の孤立化などの課題へとつながっていることから、公民館などを地域住民の学習の場や仲間づくりの場として、地域総がかりによる社会とのつながりの再構築が求められています。
- ◆ 地域全体で子どもの育ちを支えていくために、地域と学校の連携・協働*1を一層進めていくことが重要となっています。
- ◆ 休日の中学校部活動の段階的な地域移行への取組を契機に、子どもたちが主体的に多様な生涯学習活動に参加できる機会の創出に取り組む必要があります。
- ◆ ハイブリッド型図書館として、従来の紙媒体の資料と電子書籍などのデジタル資料の収集のほか、オンラインデータベース*2など、きめ細やかなサービスの充実により、読書を通じた豊かな暮らしの提供と多様な課題解決に対応していくことが求められています。



講座や教室の受講経験 (令和元年度アンケート調査より)



小さな子どもから大人まで楽しめるプラネタリウム

用語説明

- * 1. 協働
- * 2. オンラインデータベース

P7 参照
インターネットでは通常、把握できないような専門的で最新の情報を得ることができる検索サービス。過去の新聞記事、判例、論文などを調べることができる

施策の取組

(1) 多様なニーズに応じた学びの機会の提供

- ① 市民ニーズやライフステージ、時代の潮流に合った幅広い分野での学習機会を提供します。
- ② ものづくり文化など地域資源をいかした学習機会を提供します。
- ③ プラネタリウムの利用促進と、プラネタリウムを活用した天文普及を図ります。

(2) 学びの成果を地域にいかすつながりづくり

- ① 公民館講座から結成された自主グループの育成と相互交流など、地域の絆づくりを進めます。
- ② 生涯学習の拠点である公民館を利用するきっかけとなる公民館まつりなどのイベントへの参加を促し、地域住民同士が交流を深めるように推進します。
- ③ 地域と学校が目標を共有し、連携・協働^{*1}する地域学校協働活動^{*2}を進めます。
- ④ 公民館が地域とさらなる連携を図り、公民館を核として地域住民が地域を知り、地域に愛着を覚える「公民館プライド^{*3}」の醸成を図ります。

(3) 市民の主体的な学びを支える環境づくり

- ① 生涯学習の総合的な情報をいつでもどこでも入手でき、スムーズに活動へ移せる環境づくりを進めます。
- ② 市民自らが企画・運営する講座を実施します。
- ③ 新しい指導者の発掘や育成を進め、指導者情報を整備し、講座などの開設を支援します。
- ④ 地区公民館をはじめとする生涯学習施設の修繕などを計画的に進めるとともに、利用しやすい施設の運営を行います。
- ⑤ 中学生が自主的に多様な生涯学習活動に参加できる機会を確保するため、中学生も参加できる講座の情報を集約し発信します。

(4) 図書館サービスの拡充

- ① ICTを駆使した図書情報館では、電子書籍やオンラインデータベースなど、電子媒体のサービスを充実し、より身近に利用できるよう、情報提供を行います。また、紙媒体の資料は、将来ニーズや社会情勢を踏まえて収集し、多種多様な資料を迅速に提供します。
- ② 図書情報館では、市民のニーズに応えるため、課題解決のためのレファレンスサービス^{*4}をはじめ、様々な図書館サービスを行います。さらに、子育て支援、健康支援、ビジネス支援など、生活に密着したサービスの提供を行います。
- ③ 図書情報館の集客力と情報力を活用し、新たな利用者の増加、利用者同士の交流の深化、ボランティアとの連携など、市民の文化的交流拠点となる取組を行います。
- ④ 子どもの読書推進のため、本の読み聞かせサービスの提供や学校図書館との連携など、子どもの読書環境の充実を図ります。

成果指標

指標	策定時の値 (2023年度)	目標値 (2031年度)
生涯学習に対する満足度	66.8%	70.0%
地域学校協働本部 ^{*5} 設置率	0%	100%
市民一人当たりの図書年間貸出冊数 (単年度)	10冊 (2022年度)	12冊
図書館などの実利用者数 (単年度)	28,191人 (2022年度)	36,000人

関連計画

- 第4次安城市生涯学習推進計画
- 第4次安城市子供読書活動推進計画

- 安城市図書館運営基本計画

用語説明

- *1. 協働 P7参照
- *2. 地域学校協働活動 P26参照
- *3. 公民館プライド 安城市の特徴である各中学校区におよそ一つある公民館を中心とした各地域のシビックプライドを表す造語
- *4. レファレンスサービス 図書館にある資料を使い、調べものや資料・情報探しのお手伝いをするサービス
- *5. 地域学校協働本部 地域と学校の連携体制を基盤として、地域住民、団体などが参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制